

# 常なる磐

つねなる いわ season II

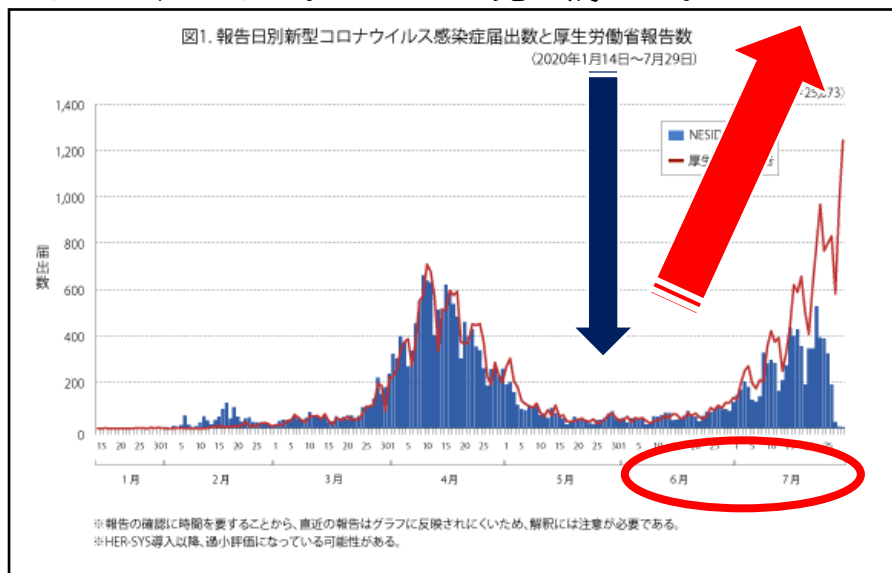
令和3年5月28日(金)  
その2

## ◇ 経験を生かす

早々と「梅雨入り」である。平年に比べて3週間も早いとのこと。長梅雨である。コロナ禍に加え、うららかな春の陽気を体感できる期間が短いとなると気持ちは沈む一方であるが、ここは気持ちを切り替えるとき。長梅雨がもたらすよさはないかと調べていると、ある情報に目が留まる。「一筋の光」か?????

4月発出のアメリカの研究によると、「新型コロナウイルスは、【湿度】を極度に嫌う。さらに【太陽光】が加われば、ウイルスの拡散は激減する」というもの。

そう、多湿こそ梅雨期であり、太陽光が照り付ける夏季は、まだまだ多湿。『予防接種も軌道に乗るだろうし、これからの梅雨から夏季にかけて新型コロナは一気に収束に向かうだろう……』一瞬そう思ったが、「いや、待てよ」。もう一度、今年のコロナ感染者数のグラフを引っ張り出してみた。すると、どうだ。グラフを見て驚いた。



赤楕円○が6月と7月。ここで一気に感染者数が増えている。まさに「梅雨期」と「夏季」である。

よく思い出してみよう。13都道府県に発出された最初の緊急事態宣言が解除されたのは、今年の5月25日。青➡の頃。そこから2週間後、感染者数を

示すグラフは、右肩上がりの傾きを急激に増している。

緊急事態宣言の解除により、外れるまでとはいかないが、人々の生活は箍(タガ)が緩んだ。それが、この結果だったのだ。その後は小さな増減を繰り返した後、変異型の出現により危機迫る状況下にあるのが現在なのだ。

かといって、研究結果がまったくのたまたまという訳ではない。

○無孔質の表面(ツルツルの基質)では、ウイルス量の半減期は18時間だったが、湿度を80%に上げると、半減期は6時間に減少し、さらに太陽光が加わると、2分間にまで減少した。

○空気中にエアロゾルの状態で浮遊したウイルスの半減期は、1時間だったが、太陽光が加わると、1分半にまで減少した。

研究結果は、あくまでも大気中にあるウイルスのことであろう。

新型コロナウイルス感染がおこるのは、大気感染ではなく、「人から発せられる飛沫による人から人感染」であることを忘れてはならない。

多湿や強い太陽光でウイルスを抑え込むことができるのなら、インドのあの爆発的な感染は起こっていないのだ。そして、本県に先んじて梅雨入りした沖縄県には、本県の後塵を拝する形で梅雨期に緊急事態宣言が発出されることも無かったであろう。

行きつくところ、これまで行ってきた感染対策を粛々と行い、新しい生活様式に則った対応を続けていくしかない。これが真の意味で【経験を生かす】ということであり、コロナに対する【本物の一筋の光】なのである。

たとえ、自分や周りの人間が予防接種をしたととも変わるものではない。

感染者数が少しぐらい減ったから、安定してきたからと言って、気を緩めるものでもない。

なぜなら、慢心による安易な行動は、真面目に感染症対策を行い続けながらも、接種の許可が下りずに危険と向き合い続ける目の前の子供たちを危険にさらすことになる。このことを忘れてはならない。